

第2回定例会において、付託を受けた案件は、(1)北海道市町村備荒資金組合規約の一部変更について(2)登別市土地開発公社定款の一部変更について(3)登別市婦人研修の家条例の一部改正についての議案3件です。審議の結果、全会一致で可決しました。

「今後の委員会活動について」

・西胆振の将来を考える研究会が設置されましたが当委員会として、当研究会の動向を注視しながら登別市民が安心して暮らし、将来展望が開ける登別のまちづくりについて調査研究していきます。

・指定管理者導入施設の視察及び現状把握と今後のあり方について調査研究し、また、関係者との意見交換を実施します。

・教育行政については学校訪問や各学校図書館の視察を行い現状把握に努め、特別支援教室については各学校の取り組み状況や、障がい児をかかえる父母と意見交換を実施し、現状把握に努めます。

生活・福祉委員会

第1回定例会で付託された登別市福祉のまちづくり条例の審査が中心的な課題となりましたが、結果的には、委員会での慎重論を踏まえ、第2回定例会で議案が取り下げられました。

しかし、この間、骨子を策定した市民自治推進委員会第3部会や社会福祉協議会理事の方々の意見聴取、先進自治体の視察、さらに、12回にわたる委員会審査は、今後の委員会活動にも繋がるものとなりました。

今回、委員会が条例案に対し一定の評価をしながらも慎重な態度を取ったのは、「理念条例にとどまらず、実効性のある条例にすべき」「登別市の特徴を活かし、観光客や事業者にも協力・支援される条例にすべき」という考えで一致したからです。



観光・経済委員会

昨年から継続して、カルルス温泉サンライバスキーマ場の運営や、水道事業などについて調査活動を行っておりです。また定例会において議案とされた「水道認定」や、「水道メーター検針及び水道料金等収納業務委託契約における業者指定取り消し」についての調査なども行ってきました。



カルルス温泉サンライバスキーマ場については、コンサルタントの調査報告を受け、地元観光事業の経済的側面を考慮し、今後も継続をするという方針が示されました。民間経営手法の導入を強調して当選した新市長が、どのような運営をするのか、委員会としても、市の財政的側面を視野にいれ、監視機能を果たすとともに提案もしたいと考えています。

11月6日、北海道市議会議長会道南支部（伊達、室蘭、登別、苫小牧、岩見沢、美唄、三笠、夕張）主催による研修会が、登別温泉で172人参加のもと開催されました。

研修は「夕張からの報告」と題し、夕張市議会の加藤喜和議長から財政破綻によって行政がどう変化したのか。現在の厳しい実態の中でも将来に夢を抱きながら議会としての責務を全うしたいとの力強い報告を受けました。一方、講師として招いた室蘭工業大学永松俊雄教授からは夕張の現状を踏まえながら①自治体の財政難に関する考察、②先進自治体の事例を交えた議会・議員としての財政提言のあり方、③財政難の下における「市町村合併」の見方や考え方等について、多くの示唆をいただくことができました。

